

新しいタイプの
図書館ユーザとして総合メディアセンター長・理工学部教授
大槻 東巳

物理系の学术论文を書くときの最近の流行は「主張したいこと、結論を最初を書くこと」である。多くのエッセイは、身近に感じたことから初めて、昨今の政治・経済情勢を考察し、提言を行うという形式をとっているが、学术论文だとそこまで辛抱強く読んでもらえないから、主張を最初を書くというやり方をとる。それに習い、私は図書館の新しいタイプのヘビーユーザであることを最初に述べておく。

ウンベルト・エーコの推理小説、「薔薇の名前」は修道院の図書館が舞台である。この小説では修道院の文書館が神聖なものとして描かれているので、これを読んで以来、図書館に入るときは居住まいを正してしまう。しかしながら私が図書館に入るのは、2階の研究支援センターに書類を届けるためか、8階、9階で行われる会議に出席するためであり、学術図書や学術雑誌を読みに行くことは5年ほど前からほとんどなくなってしまった。ではなぜヘビーユーザを自称するのかというと、電子ジャーナル、データベースの使用頻度では人後に落ちないと自負しているからである。

www (world wide web) の歴史をひもとくと、これが物理学の世界から始まったことが分かる。物理学者はコンピュータを数値計算の手段として使うことに飽き足らず、コンピュータを通信手段としてとらえ、1990年代初頭に情報交換をインターネットで行うようになった。これが画像を取り込めるようになってから、wwwの爆発的普及が始り、今日に至っている。考えてみると、wwwは文章だけでなく、数式、図、リンク付きの参考文献(最近では動画へのリンクも行われている)が取り込めるので、学術誌の電子化にうってつけである。1995年頃から、多くの学術誌の電子化が国策レベルで始まり、本学の図書館も90年代後半から電子ジャーナルの購読を推進してきた。「電子ジャーナルのサービスを始めたので先生使ってみてください」と言われて、試しに使ってみてその

便利さに驚いたのは、もう10年以上も前のことである。本学図書館においては、今では紙媒体の雑誌よりも電子ジャーナルの購読数の方が多いそうである。

電子ジャーナルと同じくらいよく使っているのがデータベースである。私は主にWeb of Scienceというデータベースを使っている。これはうる覚えの論文を検索するときや、自分で論文を執筆する際、参考文献を充実させるのに欠かせない。また自分の論文がどのグループに何回引用されているかも一目で分かるので、今後の研究の指針や共同研究の輪を拡げる上でも参考になる。

せっかく図書館がこれらの電子媒体を用意しているので、これを有効活用できるようにと、総合メディアセンターは2007年12月からVPNサービスの試験運用を始めた。このサービスは、学内でのみ可能であった電子ジャーナル閲覧やデータベース検索を、学外からでも行えるようにするサービスである。より進んだVPNサービスを総合メディアセンターとして提供する予定なので、是非活用していただきたいと思っている。

図書館は学術情報を外部から入手する手段を提供するだけでなく、本学で行われた研究・教育成果を、積極的に学外に向けて公開して行く役割も担っている。今後、こちらの方面でもITを活用した事業が展開されていくであろう。研究者データベースに加えて、今後は機関リポジトリを立ち上げて、本学の研究・教育業績を全世界に発信して行く予定だと聞いている。全世界に発信されても恥ずかしくないように研究と教育に励まなくてはと、週末になると反省している。

図書館ツアーのご案内



図書館には、約110万冊の蔵書があるほか、映画や語学のDVD・CDを視聴できるAVコーナーや、グループ学習室、情報検索室、レファレンスカウンター(利用相談窓口)など、高校の図書館とは違ったさまざまな施設があります。

図書館ツアーでは、主なスポットを約10名ずつのグループに分かれて見学します。

図書館ツアーに参加すると、図書館の使い方が分かるようになりますので、ぜひご参加ください。

***参加された方には図書館オリジナルクリアファイルを差し上げます。**

・各回30分です。①～⑫は同じ内容です。

・都合の良い日時にご参加ください。(予約不要)

・開始5分前に中央図書館1階にお集まりください。学生証を入館ゲートに読み込ませて入館し、レファレンスカウンター前でお待ちください。

●物質生命理工学科の新入生は、学科から指定された時間帯にお越しください。

(4月3日(金) 10:00～10:45、11:00～11:45)

ツアー日時	13:30-14:00	16:00-16:30
4月 3日 (金)	①	②
4月 6日 (月)	③	④
4月 7日 (火)	⑤	⑥
4月 8日 (水)	⑦	⑧
4月 9日 (木)	⑨	⑩
4月10日 (金)	⑪	⑫

図書館へようこそ

図書館は本学における教育・研究を支援するための学部や学科の内容を反映した「専門図書」を中心とした学術情報を提供しています。中央図書館では地下2階から地上8階の10フロアに、図書約100万冊と雑誌約11,000誌を所蔵しています。また、紙媒体だけでなく、電子ジャーナルやオンラインデータベースなども豊富に揃えています。地下1階と地下2階は一般教養書などの学部図書、2階と4階から8階には専門性の高い図書を中心に各階に分野別に配架されています。ほとんどの図書を書架で実際に手にとって読むことができますので、図書館内を歩いて探してみてください。

ところで、図書館は本を借りるだけのところと思っていませんか？
学習・研究のための環境もそろっていますので一部をご紹介します。
ルールを守って気持ちよく図書館を利用してくださいね！



通話・音禁止

私語厳禁

飲食禁止

貸出カウンター (1F)

図書の館外貸出・返却・延長・予約等の手続きをしています。
また、リザーブ・ブック（教員指定図書）の貸出手続きも行っています。図書の貸出は貸出カウンター前に自動貸出機が設置してありますのでこちらまでご利用ください。

サービス時間（授業・期末試験期間内）
月～金 9：00～21：00
土 9：00～17：00



自動貸出機



レファレンスカウンター (1F)



情報検索や図書館の利用相談の窓口です。
「資料の探し方が分からない」、「検索の仕方が分からない」、「購入してほしい資料がある」、など「こんなこと聞いていいのかな？」と思う前に、まずはカウンターにお越しください。専門スタッフが親身になってお答えします。

サービス時間
月～金 9：00～17：00

図書館所蔵資料・施設一覧

8階		専門・研究図書 ※学部学生の方も利用できます （4階から8階は人文・社会系）
7階		
6階		
5階	コピーサービス	
4階		（2階は理工系）
3階	新聞バックナンバー 雑誌バックナンバー（人文・社会系）	
2階	情報検索室 コンピュータールームL レファレンス資料・ 新刊雑誌・雑誌 バックナンバー （理工系）	
1階	貸出カウンター レファレンスカウンター AVコーナー レファレンス資料・ 新着雑誌（人文・社会系）	学部図書
B1階	グループ学習室 学生ラウンジ 新着新聞	
B2階		

情報検索室・コンピュータールームL (2F)

ネット環境を利用した情報検索やCD-ROM情報検索ができます。
図書にも近いのでレポート・論文の作成にも最適！
多様なデータベースを使って就職活動のための情報をgetしてみたいかですか。
（情報検索室：30台、コンピュータールームL：72台）

サービス時間（授業・期末試験期間内）
月～金 9：00～21：00
土 9：00～17：00



グループ学習室 (B1F)

地下1階には8名～10名程度のグループで利用できる部屋が3室あります。防音効果があるため、話し合いながらの学習、語学の勉強会と多目的に利用でき、とても便利です。使用するにはグループ学習室前にある使用申込表に代表者の学生番号を記入して予約してください。30分単位で最大2時間まで連続して利用できます。



学生ラウンジ (B1F)

学生ラウンジにはゆったりした椅子が約40脚あります。勉強の合間の友人とのおしゃべりや疲れた頭を癒したい時などの休憩にぜひご利用ください。



この他にも1階にはAVコーナー、各フロアには複写機[※]が設置されています。
いかがでしたでしょうか？図書館を身近に感じていただけたでしょうか？
大学に来たらまずは図書館にお越しください。この機会にぜひお気に入りの場所を見つけてはいかがでしょうか。

※図書は著作権法で守られており、規定によっては複写できない場合があります。ルールを遵守して気持ちよく図書館を利用しましょう。著作権については次号で詳しく説明します！

エーリッヒ・フロム著『愛するということ』 (The Art of Loving / Erich From)

『愛するということ』を学生みなさんにお勧めしたいのは、広い視野から現代社会を眺めること、自己を見つめなおすことに役立つからだ。フロムは「愛」を一般的な意味では用いておらず、生命の「生産性」と置き換えている。彼がフロイト「左派」と呼ばれる所以はここにある。人間同士の「与える」または「生産性」という重要な活動は、物質ではなく人間的な領域において行われなければならない、という。マルクスが資本主義社会において人間の生産性が賃金という形で交換可能なものに変異することを憂いたように、フロムも「与える」ということが経済的価値によって決定されてしまうことを危惧している。

フロムは愛を「生む力」とであるというが、これは自分のなかに息づいているもの（喜び、興味、理解、知識、ユーモアなど）を他者に与えつつ「生産性」を高めるといことである。本来、本を読む、景色を見るなどのごく普通の人間的な行為もまた、唯一

無二である自分が「生産性」を高めるのに必要な活動であるのに、フロムは（ウェーバーの合理化された社会を想定し）現代の産業システムにおいては落とし穴があるという。組織全体の構造によってあらかじめ決められた仕事をどんどんこなしていく生産性に慣れると、能動的に自己を啓発し社会での役割を意識することをやめ、つい安楽に過ごす消極的な生き方を願ってしまうことがあるというのだ。

私は学生時代にこの著書を読み、フロムのいう「生む力」を養うために大学という場所があるのかもしれないと考えた記憶がある。しかし、社会人になって、この活動は継続的なものだと思い始めている。社会という共同体において自己実現を果たし、自分の能力をより大きく開花していくことを勇気づけてくれる一冊である。

>> 図書館所蔵

愛するということ：

学部地下1階 請求番号 152:F487:1991

The art of loving：

書庫8階 請求番号 BF:575:L8:F76:1974

Snow / Orhan Pamuk (オルハン・パムク著『雪』)

Originally written as Kar, the name of a remote, frontier town in Eastern Turkey, and translated into English as *Snow*, this enigmatically beautiful novel by the world-famous 2006 Nobel Prize winner Orhan Pamuk is a haunting, tale of love, happiness, and the clash civilizations (Islam and secular values). From a technical point, it is a masterpiece in the art of the novel. After some years in exile in Germany, the Turkish poet Ka is sent as a reporter to the small, poverty-stricken town of Kar, to investigate several cases of suicide among young schoolgirls refusing the Islamic veil. He hopes as well to reconnect himself with the “beautiful Ipek”, a modern Turkish woman whom he knew and loved during his youth in Istanbul. In his quest, Kar will meet all the different groups of this little-known part of the world: government official, idealistic students, Kurdish separatists, a leftist theater group (including the memorable Republican comedian, Sunay and his wife), and dangerous Islamic extremists, one of whom is called Lazuli. In this bleak, mountainous region, the snow -- perhaps the main character, since it pervades the entire novel with its whiteness, its cold, its sadness -- ceaselessly falls, to the point of cutting the town off from the rest of the world. The approach of local elections raises political

passions to a paroxysm, until, unexpectedly, a military coup plunges everything into chaos. Various plot elements are thus intertwined into an unmatched narrative unity: the interplay of the political and the religious, the struggle between westernization and traditionalism, Ka's rediscovery of poetry and God, and eventually, his tragic, ill-fated happiness with Ipek.

Very different from Kawabata's celebrated novel, *Snow Country*, Pamuk's *Snow* resembles it in that the reader is gradually brought by the all-pervasive snow to the point that, reading between the lines, one can actually feel its silence and the lack of motion it imposes on everything, including the rhythm of the sentences. Himself born into a wealthy, westernized Istanbul family, Orhan Pamuk in this novel managed to give voice to forgotten people living at the distant periphery of the world, thus conveying a vibrant message of humaneness and humility. “More than a novel about political Islam, *Snow* is a novel about the quest of happiness”, Pamuk once told Japanese Nobel Prize winner Oe Kenzaburo. He could have added that it was a novel about part of each of us.

>> 図書館所蔵

Snow：書庫6階

請求番号 PL:248:P34:K36513:2005

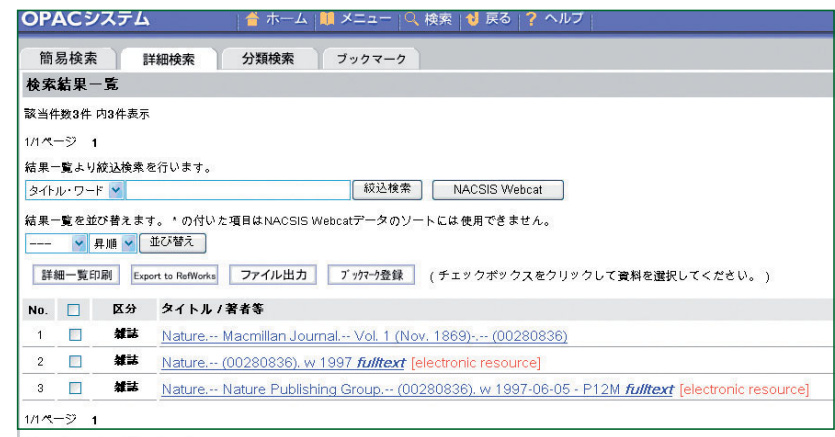
雪：学部地下2階 請求番号 929.573:P193y

電子ジャーナル を使いこなそう

上智大学では、電子ジャーナルを約20,000タイトル購読しており、学習・研究にとっても便利！
学内のどのパソコンからでも閲覧できます。

さあ、ホームページから「Nature」を読んでみましょう！

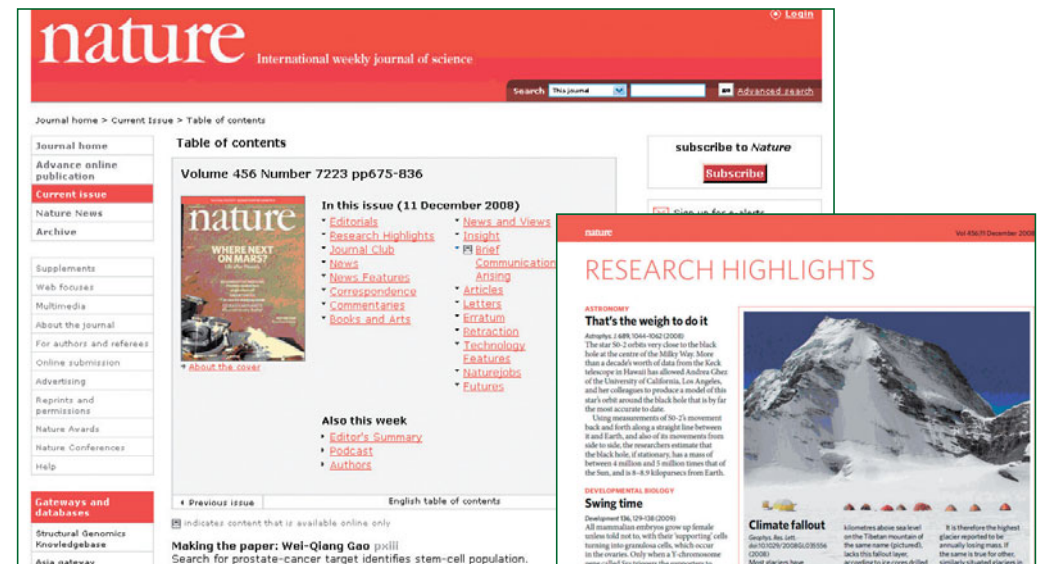
STEP1 OPAC（図書館オンライン目録）の詳細検索で、雑誌と指定したうえ、フルタイトル項目に「Nature」と入力し検索します。検索結果の「Nature」（**[electronic resource]**）をクリックします。



STEP2 URL上をクリックします。



STEP3 「Nature」の本文を閲覧します。



文献の探し方 >>3

「文献(情報)」を探す
～『地球温暖化』に関する文献(情報)を～探してみよう

図書館には様々な資料がありますが、実際にレポート・論文を書くにあたって、どのような手順で図書館の資料を活用すればよいのでしょうか？皆さんに図書館の資料を有効に使っていただくために、レポート・論文を執筆するために知っておくと便利な「文献の探し方」を連載しています。

第3回目は「文献(情報)を探す」です。『地球温暖化』というテーマを例にとり、文献(情報)の探し方についてご紹介します。

■■■■■■■■■■ レポート・論文作成の手順 ■■■■■■■■■■

① 用語を調べ、
テーマを決める

辞書、百科事典、データベース、インターネット情報等により、テーマについて調べましょう。図書・雑誌論文など各種文献を概観し、同一テーマでの研究例などを調べるのが大切です。

② 文献(情報)を探す

テーマが決まったら、OPAC(上智大学蔵書検索)、各種データベース、レファレンス資料等を駆使して、テーマに関する文献(情報)を探しましょう。必要に応じて文献リストを作成します。

③ レポート・論文を
執筆する

文献による情報、それ以外の調査データ、アンケート、フィールドワーク(取材)等の客観的事実を踏まえ、レポート・論文を執筆しましょう。

今回も引き続き
これを取り上げます

■■■■■■■■■■ データベースを使ってテーマに関する新聞記事などを探す ■■■■■■■■■■

文献を探すには、OPAC(蔵書検索)を利用して、関連する図書を探す方法がありますが、「日経テレコン21」というデータベースを使うことで新聞記事や企業情報などを調べることができます。

例)『地球温暖化』に関する新聞記事を探してみましょう

日経テレコン21を使う

「日経テレコン21」とは、日経四紙1975年以降の記事検索、政府官公庁提供の主要マクロ経済統計、金利、為替データを検索できるデータベースです。(日本経済新聞「明治から戦後まで」(1876年～1956年まで)を検索する際は、日経四紙選択ボックスでチェックを入れることで検索ができます。)

図書館HP→データベース検索→新聞記事→日経テレコン21

から検索することができます。

学内で同時に利用できるのは10人までです。使い終わったら必ずログアウトしてください。

例) キーワードに「地球温暖化」を入力すると・・・

記事検索を選択

<記事検索>

記事に「地球温暖化」という言葉が入っている新聞記事の見出しが表示されました。

新聞画像を見ることができるものもあります。

日経テレコン21は新聞記事検索のほかに、企業検索や、POS情報(加工食品・家庭用品売れ筋商品ランキング)を見することもできます。

企業検索を選択

使い終わったら必ず
ログアウトしてください

<企業検索>

POS情報を選択

<POS情報(売れ筋商品ランキング)>

NEW COLLECTION!

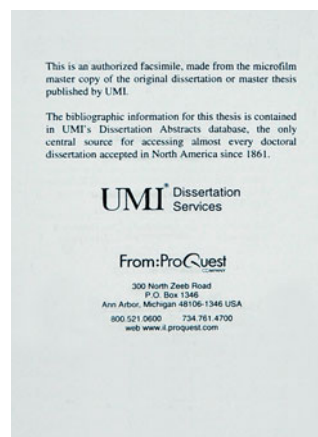
平成20年度文部科学省研究設備補助金を得て2つのコレクションを図書館に受け入れました。

1. Collection of American Theses on International Conflict and Security, 1997-2007

>> 書庫4階 請求記号 JZ:1234:C56:v.*

国際紛争と安全保障に関する学位論文コレクションです。世界が混沌としている昨今、国際政治の課題（宗教観の対立・民族間の戦争・天然資源をめぐる国際紛争・世界各地の安全保障等）として注目される分野の論文をそろえました。1997年から2007年までに提出されたアメリカの学位論文252点を手にとって見ることが出来ます。

アメリカの各大学に提出される学位論文は、研究テーマの斬新さ、結論を導き出す思考・研究のデータの蓄積であり、論文を書く際の参考文献として利用していただけたと思います。



2. The Eighteenth Century — Literature and Language — (microfilm)

>> AVコーナー 請求記号 PR:1134:L58:1987:v.*

18世紀に英語・英語圏で刊行された図書のマイクロフィルム化したコレクションの中から、今回は文学・言語学文献を中心に収録された部分を購入いたしました。このコレクションに収録された文献は、大英図書館・ハーバード大学図書館といった世界の主要な図書館に現存する図書です。上智大学にいながらにして、世界各国の主要な図書館の古い文献を利用、研究することが出来ますので是非研究に利用していただきたいと思います。

収録されている図書のリストとINDEXがAVコーナーにありますので、それを参照の上貸出カウンターで該当のマイクロフィルムの利用請求をしてください。

なお、姉妹編としてEarly English Books 1475-1700もあります。



図書館で一番読まれていた文学作品は何？

5年間貸出Best5 (文学作品 2004年～2008年度)		貸出回数
1位	夜と霧／ヴィクトール・E.フランクル[著] (夜と霧：ドイツ強制収容所の体験記録／ ヴィクトール・E.フランクル著；霜山爾訳 夜と霧／ヴィクトール・E.フランクル[著]；池田香代子訳)	199回 140回 59回
2位	キャッチャー・イン・ザ・ライ／J.D.サリンジャー[著]；村上春樹訳	69回
3位	ねじまき鳥クロニクル／村上春樹著	56回
4位	星の王子さま／サン＝テグジュペリ作；内藤濯訳	55回
5位	沈黙／遠藤周作著	54回



上智大学図書館だより No.4

発行所 上智大学図書館
〒102-8554
東京都千代田区紀尾井町7-1
TEL：03-3238-3510
FAX：03-3238-3139
発行日 2009年4月1日
印刷 株式会社ユニット
TEL：03-5649-0031